

会報

○「IAHR世界大会への参加補助」選考委員会

日時 二〇一〇年二月一三日(土)一四時―一五時

場所 東京大学 法文一号館 一一六教室

出席者 池上良正、池澤優、川橋範子、櫻井義秀、澤井義次
(長)、下田正弘、月本昭男、林淳、山中弘、渡辺和子、(オブザーバー) 島蘭進

議事

七名の応募について審査し、七名全員が採択された。四月一日の理事会に当委員会案として諮る。

○本号は、第六八回学術大会紀要であるが、本号掲載の他に以下の研究発表があった。(発表順)

第一部会 創造論の言説―その科学的根拠について―(十津守宏)、二分法のほぐし方(関一敏)

第三部会 ジャン・ナベールにおける悪の経験と宗教的意識の関係(山内誠)

第九部会 鎌倉長谷寺出土写経骨の思想背景―武士と供養の視点から―(立花弥生)

第十部会 日本近代仏教と生命主義的思考についての一考察(山本栄美子)

第十三部会 ユングの思想における倫理(杉岡正敏)、近年心

理学理論における死と宗教―恐怖管理理論について―(イーリヤ・ムスリン)

第十四部会 アニメ聖地巡礼にみるパフォーマンス(デール・アンドリュース)、供養と観想としての飲食―古今の南アジア密教における飲食実践―(杉木恒彦)

第十五部会 民族学校と祖先祭祀(田島忠篤)

第十七部会 宗教科指導要領にみるドイツの宗教教育(石川智子)

なお、発表を取り消したものは、パネル 地域社会と慰霊顕彰(孝本貢)、第六部会 前期西田哲学における宗教論(加島史健)、玉城康四郎と西田哲学(西元和夫)、第八部会 仁岳における仏身論(金希泰)、第九部会 浄土の教えの極まるころ(前田恵學)、第十一部会 ヴェーバーテーゼと生命主義的救済観像(池田昭)